

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200232		
法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会		
事業所名	グループホーム千手		
所在地	新潟県長岡市千手3丁目1-14		
自己評価作成日	平成22年12月8日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者一人ひとりを個人として尊重し、住み慣れた地域の中で安心してその人らしく暮らし続けることを支援します
・自分らしさが発揮できる場を提供し、日々の生活に喜びと安定した穏やかな生活を過ごして頂けるようにサポートしています
・家族、地域との交流を通し、認知症ケアの実践を地域に伝え、理解を得られるような取り組みに力を入れています。又、地域交流の機会として、定期的なお茶飲み会を実施しています
・併設事業所との連携により、季節の行事(大花火観賞会・千手祭・文化祭など)に出掛けたり、地域との交流を行っています

「グループホーム千手」は長岡駅からほど近い住宅街に建てられた複合施設の中にあり、併設された小規模特別養護老人ホーム・小規模多機能型居宅介護支援事業所とともに地域に密着した事業を展開している。近隣には商店街や、医院、公共施設などがあり生活の利便性が良い環境にある。

地域との交流に力を入れ、積極的に地域の行事へ参加しており、また、地域に対しては施設の地域交流スペース、キッズルームを開放し、交流を図っている。「介護の日」に関するイベントの開催など事業所の有する専門性を地域に提供し、また、新潟県認知症高齢者グループホーム協議会の中心的立場の事業所として認知症高齢者のケアの向上をめざしている。災害時の地域との連携体制作りにも力を入れており、法人事業間の連携を最大限に活かして、利用者の安全を確保するための仕組みも構築している。

管理者及び職員は事業所の理念を共有し、その人らしい生活の継続ができるよう、個人の尊厳と家庭的な雰囲気を大切にしながら支援を行っている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員は、利用者の意思を尊重して明るく家庭的な雰囲気大切に、地域との交流の中で、その人らしい暮らしをして頂けるよう支援している</p>	<p>複合施設の中でグループホーム独自の理念が作成されている。廊下の見やすい所に掲示したり、利用者個々の経過記録ファイルに挟み込むなど、職員が意識しやすいように工夫している。また、ミーティングでも定期的に話し合われており、職員は理念を共有し拠り所としてサービス提供にあたっている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>行事への参加を呼び掛けたり、広報誌を配布するなど、家庭や地域との交流を積極的に行い、地域とのつながりを大切にしている</p>	<p>自治会に加入し地域の行事に積極的に参加している。地域に対しては事業所開催の茶話会や「介護の日」のイベントへの参加を呼びかけている。行事以外にも、地域交流スペースやキッズルームを開放し、子供たちを通じた地域との交流もなされている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>毎月一回、地域交流としてお茶飲み会を実施し、認知症の人の理解や支援について地域の方々に発信している</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二カ月に一回、運営推進会議を開催し、評価の内容や行事、防災訓練の検討をしている。事故議案においても率直な意見を頂くことで、サービスの質の向上につなげている。また、運営推進会議の議事録を市に提供している</p>	<p>利用者、家族、自治会、行政、医師、法人本部等多方面の関係者により構成されており、参加者の積極的な意見・助言をサービスの質の向上につなげている。また、平成22年度は地域住民との防災訓練実施に向け話し合いを進めている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の議事録を送り、ホームの状況を市に伝えている。機器レンタルの件で市の職員に相談・援助を頂くことで、ホームの利用者の課題解決へつなげることができた。毎月、介護相談員の方に来て頂いて利用者の状況の把握をして頂いている</p>	<p>運営推進会議の内容を報告し、ホームの現状や課題を伝えている。また、毎月、市の介護相談員2名が訪れており、事業所の状況や取り組みを伝えたり、現場での身近な問題について相談し、一緒に取り組んでいく関係が築かれている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての研修を開催することで、職員の知識や理解を深める機会を設けている。その上で職員は日々の業務において身体拘束をしないケアを常に意識して取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関する勉強会を実施し、職員は対象となる具体的な行為を理解している。玄関は施錠せず、利用者一人ひとりの外出の傾向を把握し、マニュアルに沿って職員の見守りにより対応している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を開催することで、職員の学ぶ機会を設け、利用者のホーム内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修は計画的に実施・参加している。また、それ以外にも県・市からの虐待に関する通達文書が来たときなどその都度職員間で話し合っており、職員の意識を統一している。悩みは抱え込まず相談するように新人研修でも指導し、虐待の防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門研修や園内研修に参加している。成年後見制度を利用している方がいられるので知識や情報を共有している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約等は管理者やケースワーカーが介入し、不安や疑問点について十分な説明を行い、理解・納得をして頂いている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者が食堂でゆっくり過ごされたり、アクティブを通して会話が多く持てるような雰囲気作りをしている。その中で、利用者から不満が聞かれた時は、家族や地域の方々の協力を得ながら解決している	居室担当の職員を決めて、普段の会話の中で利用者の意見や要望をくみ取るようにしている。家族の面会があったときは、業務を他職員に替わってもらうなどして担当職員が時間を作り、家族との会話を大切にしている。運営推進会議・家族懇親会など家族が意見・要望を表せる機会も設けている。	利用者・家族が意見や要望、苦情を表出しやすいよう、いくつかの方法の用意や機会・場があることを繰り返し説明するなどより一層の働きかけを行い、サービス向上に反映させていくことを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング以外にも職員の意見や提案を踏まえつつ、医師や看護師等と意見交換をしている。必要に応じて会議を開き、検討や評価をしている	日常の業務の中であがってきた職員の意見は、職員連絡ノートを活用してミーティングで検討している。月1回管理者を交えた定例会議も行われ、意見や提案を運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、職場連絡会を開き、職員の声を聞き、運営に反映している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営施設全体で職員に対する研修を行っている。入職一年目、三年目、五年目、中間管理職、幹部職とそれぞれの研修があり、スキルを磨いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県のグループホーム協議会の中心的な事業所として活動し、協議会を通じて交流を図っている。法人内にも複数のグループホームがあり、定期的な学習会や交流会を行っている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との話し合いにより、生活歴や本人のこだわり等を理解し、その方の思い、ニーズを受け止め、安心して頂ける関係作りに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、話を傾聴し、家族の思いを理解し受け止めるよう努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人、家族の状況やニーズに沿って、何が必要か見極め、サービス利用も含めた対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし支え合い、共感できる関係作りに努めている		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と常に利用者情報の共有を図り、共に利用者を支えていけるような関係の構築に努めている	利用者とともに楽しめるよう家族にも行事の案内を出し参加を促している。面会の頻度等から家族の現況にも気を配り、面会が遠のいている家族にはホーム側から働きかけを行い、関係の維持に努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方にも来て頂きやすい関係、環境作りに努めている	センター方式のアセスメントを活用し、本人がこれまで培ってきた人間関係や社会関係を把握して、職員間で情報共有し馴染みの関係の継続を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりがお互いを尊重し、助け合い、支えあっていけるような人間関係を構築し、みんなが楽しく関わり合えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設はターミナルケアを行っており、死亡退所がほとんどである。継続的なフォローを必要とする場合は相談・支援を行う体制を取っている。他施設への退所の場合には必要に応じて面会や情報提供を行っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の伝達が困難な方でも、会話や観察の中での気付きにより、伝えたい事・意思の把握に努め、職員共通の理解により、本人本位の対応に努めている	日々の会話や関わりの中で利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通が困難な方には家族・関係者から情報を得ようとしている。センター方式アセスメントの「24時間シート」に、居室担当職員が1日を通じた本人の様子を継続的に記入して、職員間で情報や気づきを共有している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、ご家族からの協力を得ながら、本人の言葉等から生活歴等の情報把握に努めている	センター方式のアセスメントを活用し、本人、家族、入居前に利用していたサービス事業所等から情報収集をしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常を観察し、心身状態や有する力を把握し、その人に応じた対応に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中での気付きは申し送りノートに記入し、それをもとにカンファレンスを開催して本人や家族の意向を確認しながら介護計画を作成している。必要な時は訪問看護師、主治医からもアドバイスを頂いている	居室担当職員が日々の関わりの中で得た利用者の思いや意向と、家族に聞き取りをした意見・要望をもとにカンファレンスで検討して介護計画を作成している。必要時主治医や訪問看護師のアドバイスも介護計画に反映させている。	本人・家族の参加のもとでのサービス担当者会議開催など、可能な限り本人・家族にも介護計画作成のプロセスに主体的に関わってもらいながら、これまで以上に本人主体の介護計画の作成がされることを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り・気付きノートにより、職員間で情報を共有し統一したケアを行っている。ミーティングにより介護計画のモニタリング・見直しを行い、より良い介護計画になるよう活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望やニーズに合わせ、利用者のリズムに沿った支援をしている。臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地域交流、尺八の会の方などが来園し、お話の傾聴やレクリエーション等に参加して頂いている。千手小学校の校外学習の場を提供したり、地域近隣の方から自宅で採れた花、野菜等を持参されての訪問など地域と協力して支援を行っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により、在宅医を決めて二週間に一回定期往診に来て頂いている。本人からの健康相談や職員からの質問に適切な助言を頂き、支援につなげている。必要時にはサービス担当者会議に出席、家族と共に利用者への援助を支援して頂いている	入居時に本人・家族の希望により主治医を決めてもらい、2週間に1回往診をしてもらっている。受診が必要な時は原則家族に依頼し、利用者の事業所での状態を文書にして家族に渡している。受診結果は家族からの聞き取りや医師からの返信で確認し、情報を共有しながら支援を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一回、訪問看護によるバイタル測定を行っている。健康面について、利用者や職員の相談にのって頂いている。緊急時に連絡、訪問を受けられる体制を取っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーとグループホームのケースワーカーが中心となり、連絡調整を行っている。退院に向けての準備を行い、必要時にはサービス担当者会議を開催し、統一したケアを行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応に係る指針の書面にて、家族に説明・同意を得ている。家族の意向を確認し、主治医と連携を図っている。今後の状態変化を考慮し、助言を頂いている	看取りや重度化へのケアについて、職員間で方針の共有がなされている。看取り・重度化の指針が作成されており、入居時に説明し家族から同意を得ている。また、段階ごとに家族の意向やかかりつけ医の意見を確認し、安心して納得した最期を迎えられるよう対応している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、知識を身につけている。又、急変時のマニュアルや個々の連絡先なども作成している	事故防止マニュアルやヒヤリハット報告を活用し、事故の未然防止に取り組んでいる。年一回複合施設全体で救急救命法や応急手当の研修が行われており、複合施設とは夜間の連携体制がつけられている。利用者の身体変化を見逃さないための研修も随時行っている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害などの災害時に、利用者が安全に避難できる方法を身につけ、マニュアルを作成し、周知している。又、消防署からは避難訓練の指導などで協力を得ている	年2回複合施設全体による合同避難訓練を行っており、職員は避難経路を熟知している。地域住民を交えた訓練も今後予定されている。大きな災害時には市内に点在する法人事業所のネットワークを活かし一時避難所確保の用意をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉を使用せず、一人ひとりの人格・能力を尊重し、対応している。個人情報に関するものは、外来者に触れないよう配慮している	個人情報は鍵のかかる書庫に保管し、記録も利用者のいないところで行っている。職員は、利用者の知られたくない領域には踏み込まないように配慮をして関わりをもっている。また、日々のケアの声かけも、そっと本人にだけわかるようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせ、敬語や分かりやすい言葉を用いている。言葉での意思表示が難しい方は表情やアイコンタクトから意思を読み取るよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや生活リズムに合わせてゆったりとした日々を過ごして頂いている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容院を利用されたり、ご自分の希望通りの髪型にして頂いている。外出できない方は地域の理容室に出張して頂いている。衣服は好みのものを着用し、自分らしいおしゃれを楽しまれている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好、食事形態など食事を楽しく食べて頂けるよう工夫している。下膳等を手伝って頂き、食事は職員と一緒にゆっくりを召し上げて頂いている	食材の簡単な下処理や盛付け、茶碗拭き等を利用者と一緒に行っている。献立は法人本部の管理栄養士が作成しているが、利用者の嗜好、食事形態、医師や看護師の助言等、一人ひとりに応じた献立での食事も提供している。職員は利用者テーブルを囲み、楽しく食事ができる雰囲気作りを大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を参考に食事を提供している。本人の飲みたい時に飲んで頂けるようお茶等を準備している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて、歯磨き・入れ歯洗浄・うがいを実施している。又、訪問看護と連携し対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し、排泄パターンを把握しながら表情や行動を観察し、必要に応じてトイレ誘導・声かけを行っている	センター方式アセスメントの「24時間シート」に利用者一人ひとりの排泄状況を記録し把握している。本人の仕草を観察したり、時間を見ながらさりげなく声かけし、トイレでの気持ち良い排泄を目指して支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックによって排便状況を把握し、便秘の原因を検討し、その方に合った飲み物や食べ物を提供する。又、主治医と連携して薬などの調整、予防に取り組んでいる		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のタイミングに合わせて入浴できるように可能な日は午前午後と入浴を行い、回数や入浴時間など、ニーズに合わせて支援している	基本的には週2回の入浴としているが、希望があればその都度入浴できるよう対応している。また、利用者一人ひとりの入浴をしたいと思うタイミングに合わせて、午前と午後どちらにも入浴できるようにしている。一般浴槽での入浴が困難な場合は併設施設の機械浴槽を利用して安全な入浴を支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて休息して頂く。眠れない時はリラックスできるよう温かい飲み物などを提供し一緒に過ごすよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や用法を把握し、適切な内服を支援している。また、症状や状態変化に応じ、主治医に報告し、指示を頂いている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った出来ることを見出し、支援している。居室の掃除、茶碗拭き、洗濯物たたみ、洗濯物干し、もやしの根取りなど生活の中での役割を活かし、喜びにつながるよう支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の楽しみや希望に沿って家族との協力を得ながら、買い物や散歩、外食など出掛けられるよう支援している	近所の理容店に出かけたり、夏場の畑作りなどは地域の協力を得ている。また、外食や美術展等への外出は、家族の協力を得ながら実施している。正月は近くの神社に初詣に行くなど、利用者一人ひとりの希望や季節に応じて積極的に外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行い、随時本人の希望に応じ、出し入れできる状態にある。また、本人が財布を持っていられる方も外出の際に自由に使えるよう支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて、電話や手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂を兼ねた居間は整理整頓を心がけ、季節の花や各行事の装飾を飾り、リラックスできるような音楽を流し、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。また温度・湿度・明るさの調節をしている	事業所には花やまゆ玉、絵画等季節に応じた飾り付けがされており、さりげない音量で心地よく音楽が流れている。リビングの家具の配置は利用者と相談して決め、歩行中にちょうど良く座れるような位置にソファを配置し、利用者が生活しやすい空間づくりをしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のほかに座敷などで談笑したり、併設している他事業所に行くなどして、ご自分の好きな時間を過ごして頂いている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや好みのものを持ってきて頂き、居心地良く過ごせるよう支援している	仏壇や、自宅で使い慣れた家具・寝具等が持ち込まれている。飾り付けや家具の配置等居室内の設えは本人と家族とで行ってもらい、その人らしく居心地良く過ごせる部屋作りがなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状況に応じ、安全な環境作りをし、自立した生活動線に合わせた支援をしている		